

キヨスミウツボ属 (*Phacellanthus*) は従来唯キヨスミウツボの一種日本より知られしに過ぎざりしが著者はウラジヲストック附近より *Phacellanthus continentalis* n. sp. を発見せり。(Z. Y.)

大井次三郎氏：—東亞産スゲ属への貢献前編、〔京都帝國大學理學部紀要、B 區五卷三號〕(J. OHWI: Contributiones ad Caricologiam Asiae Orientalis, Pars Prima, in Memoirs of the College of Science, Kyoto Imperial University, *Series B*, Vol. V, No. 3 Article 12. Kyoto, July 1930).

京都帝大植物學教室の標品室には、故 U. FAURIE 氏が集め、KÜKENTHAL 氏其の他スゲ属の専門家が鑑定した、有名な東亞産スゲ属標品の一そろひが保存されてゐる。特にスゲは念入りに採集したので、其の標品製作上の方法についてはしばらくおけば、かの莫大なる標品に各々正確なる番號を與へ、各番號を世界の大研究所に配布した事については、神技とも云ふべく、驚き入る外はない。大井氏の研究は、この正確なる Duplicate type 並びに Co type を使用され、多量の教室所藏の同属未研究標品(特に九州の標品は田代善太郎氏の大蒐集品が加つてゐる)を分類され、其の結果幾多の新事實が発見された。本論文中新種には、*Carex Gotoi*; コウライカワラスゲ、*C. persistens*; キンキカサスゲ、*C. autumnalis*, *C. hondoensis*; アイズスゲ、*C. levicuspis*, *C. mayebarana*; ケヒエスゲ、*C. papillaticulmis*; アオバスゲ、*C. subdita*; アオヒエスゲ、*C. uber*; ツクシスゲ、*C. geantha*; ハガクレスゲ、*C. tenuinervis*; ツルナシオホイトスゲ、*C. Tashiroana*, *C. kiusiuana*; ツクシシヨウジョウスゲ、*C. lutchuensis*, *C. perangusta*; ヤクシマイトスゲ、*C. lonchophora*, *C. Hidewoi*; センジョウスゲ、*C. subcernua*, *C. mitoensis*; ミトスゲ、*C. kobomugi*; コウボウムギ *C. spongiosa*; 等あり *C. nanella*, ミヤマカサスゲ、*C. multifolia*, *C. cucullata*, 等の新名や新組合せがある。其の他多数の新變種並びに新見解、新産地を發表された。就中コウボウムギ (*Carex kobomugi*) は著者の大いに心を用ひられしところと聞く。(北村四郎)

同氏：—東亞産スゲ属への貢献後編、〔京都帝國大學理學部紀要 B 區六卷五號〕(J. OHWI: Contr. Caric. As. Orient. Pars Altera, 1. c. Vol. VI. no. 5 Article 7 Kyoto, July 1931).

本論文は上記の後編であつて、同氏の朝鮮咸北採集旅行に依る新研究、並びに内地産のスゲ属の記事がある。多くの新産地、新見解、新變種が記載されてあるが、そ

の新種は *Carex phaeothrix*; イワナルコスゲ、*C. ochrochlamys*; ヒメホスゲ、*C. atroviridis*; ヤクシマスゲ、*C. sozusensis*; ヤチアベスゲ、*C. tumidula*, *C. fusco fibrosa*; ヒエスゲ、*C. senanensis*; ホスゲ、*C. impura*; ヒルゼンスゲ、*C. cuneata*; ミチノクホンモンヂスゲ、*C. praestabilis*; ツルカミカワスゲ、*C. ouensanensis*, *C. graciliculis*; ムシヤスゲ、*C. Otayai*; ナガエスゲ、*C. Yoshinoi*; ムラサキヒメカンスゲ等で、新名並びに新組合には、スナヂスゲ; *C. glabrescens*, ツルシバスゲ; *C. subbracteata*, ウスイロスゲ; *C. accrescens*, コアベスゲ; *C. Koidzumiana* 等がある。終りに第一編及び續編の總目録がつけてある。(北村四郎)

山本由松氏：—續臺灣植物圖譜第五輯、〔臺灣總督府中央研究所林業部特別報告〕 (Y. YAMAMOTO: *Supplementa Iconum Plantarum Formosanarum Pars quinta*, published by the Department of Forestry, Government Research Institute, Taihoku, April 1932).

本圖譜第五輯には、*Carpinus Sekii*; タイワンアカシデ (cum fig.), *C. hebestroma* タロコシデ (cum fig.), *C. rankanensis* var. *Matsudae*; ホソミノランカンシデ (cum fig.), *Illicium daibuense*; ホソバシキミ (cum fig.), *Plantago Sawadai*; カワリオホバコ、*Valeriana nokozanensis*; ノウコウカノコサウを新しく發表され、嘗つて臺灣博物學會報に發表された、*Aconitum Bartlettii*; シマトリカブト (cum Tab), *Clematis Bartlettii*; オホタイワンボタンズル (cum fig.), *Crawfordia cordifolia*; アオイツルリンドウ (cum Tab.), *Euphrasia nankotaizanensis*; タイザンコゴメグサ (cum Tab.), *Corylopsis Matsudai*; シマミズキ (cum fig.) の記載文及び精細な圖版を附し、*Amentotaxus argotaenia* Pilger; ウラジロマキに関する精しい記載と圖が載せられてある。其の他多數の重要な新見解、新産地を報ぜられてゐる。本圖譜はこの號にて終り、末には學名並びに和名の索引が付してある。尙同氏の研究は今後熱帯農學會報に *Observationes ad Floram Formosanum* の題名の下に連載される由である。(北村四郎)

岡田喜一氏：—臺灣紅頭嶼の淡水藻類 Y. OKADA: *The Freshwater Algae of Botel Tobago Island or Kôtôsho, Formosa* (The Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, Vol. III, No. 1 p.p. 36—63, pl. II—V, June 1932).

此論文には綠藻類9科55種、藍藻類5科17種が發表されそのうち新種3新變種4が記載されてゐる。材料は1929、1930年四月の採集である。此報告によつて日本の淡水藻